

キリスト教——
その問と答

キリスト教——その問と答

日本基督教団東中国教区
宣教研究委員会

序 文

信仰は、体と生活で信じ告白してゆかねばならないものです。『体と生活』とは『いかに』信じてゆくかという信じる者の姿勢、つまり実存的な側面であり、『告白』とは、『何』を信じるかを言い表わす教理的な側面です。この二つは、どちらも軽んじてはならない車の両輪のようなものです。伝道ということも、わたしたちがほんとうにこの二つを生々と生きる時に始めて起ころのだと思います。

ところで、従来、信徒伝道ということがいわれた時には、そのほとんどが、いわゆる『証し』といわれている信仰の体験談を語ることを意味していたように思われます。体験を語るということは、それによって自分の血となり、肉となった神の恵みを語ることでですから、それがかなりの説得力と伝道力をもつことはいまでもありません。しかし、日本人は相当に知的な国民ですので、人はそうした体験談のみでなく、同時に、自分たちの知的な疑問に対して、そこで信じられているものがどう答えてくれるかをききたいという要求を強くもっております。

キリスト者であって、人からキリスト教の教えについて質問をうけたことが一度もなく、答えに困ったことの一度もない、という人はおそらくないでしょう。

東中国教区宣教研究委員会は、この空白に気づき、信徒、または求道者のための簡潔な伝道的

キリスト教問答書を作るべく取りかかったのです。最初に教区内の信徒の方々からアンケートをとり、どんな質問をよくうけるかを調査し、すでに出ているいろいろの信仰問答書を参照しながら、田井中純作（倉敷教会牧師）戸田伊助（前岡山蕃山町教会牧師、現名古屋教会牧師）の両名が第一試案を作成し教区内の教職によって逐条審議を重ね、三年有余をついやして、ようやくまとめ上げたのです。それが本書です。ですから、これは文字通り東中国教区の祈りと知恵を結集した協同の力作であります。もちろん、用語においてまだまだ固いところがあり、本書からおちた重要な問いもあります。その点、未完成の感を禁じえません。更に、答については意見のある方もあることと思います。そうした点は今後、大方の御指摘をいただきたい。訂正補筆を加えてゆくとしますので、わたくしからも、よろしく御協力をお願いいたします。

最後に一言つけ加えたいことは、実際の伝道にあたった時、どうぞ、ここにかかれた答を決定版であるかのようにのみにし、そのまま、おうむ返しに人に語らないようにしてほしいということです。わたしどもにとって決定的に大事なことは、単に教えられた教理を忠実にいかえすことではなく、ひとりひとりが、イエス・キリストとのかかわりにおいて、生き、考え、語るという事です。本書も、読者がそうしたあり方をするのに役立ちたいという願いをもって書かれたものです。ですから、まず十分に理解し、納得した上で、それを自分の言葉にして、

自由に語ってほしいと思います。単なる、教会の教えではなく、自分の責任において語れる、自分のものになった言葉だけが、生きた伝道力をもつのです。願うところは、この小さな努力が日本伝道の一つの武器として用いられることです。どうか、各教会において、信徒伝道のハンドブックとし、あるいは、婦人会、青年会、求道者会などのグループのテキストとし、更には、全信徒のもつべき信徒必携として、盛んに活用されますように切望してやみません。

一九六四年七月三〇日

前東中国教区宣教研究委員長

戸 田 伊 助

重版（第二版）について

東中国教区宣教研究委員会が多くの人の協力を得て、実際に役に立つ伝道用信仰問答としてこのような小冊子を作成したところ、予期以上に教区内外の多くの方々から支持を与えられた。数々の意見や忠告にあわせ、意外の好評を感謝すると共に、このような対話が育てられ積み重ねられて行くことは大きな喜びである。ある教会では幼稚園母の会のテキストとして三百冊近く用いられたと伺って、驚きと責任の思を深くした。大多数の教会では求道者会で最も活用されているようである。わたしたちとしても、決してこのままで満足している訳ではなく、内容にも不備な点も多いので、多くの同労者の意見をもとにして、改訂版を作りあげたいと願っている。しかし第一版が既に早く売り切れ、なお各地からの希望が相次いでいるので、重版を発行することにした。

重版発行に際しては、単なる増刷ではなく、申訳ないことながら第一版に多くあったミスプリントや字句の修正をたんねんに心掛け、ことに聖書の引用箇所は厳密に検討の上、さらに必要なものを多く追加した。内容については改訂版に譲ることにしたが、これだけの作業でも、小寺昌良（井原・高屋教会牧師）、内藤留幸（蕃山町教会牧師）、小生の三委員で五回の会合を重ねた次第である。

改訂版については、主の祈り、使徒信条（教団信仰告白と共に）をぜひ加えたいと思う。其他内容的に問題の点を検討して、できれば一年後位を目標に励むつもりである。わたしたちはこのような小冊子でも、教会の共同の働きのために、有効に十二分に活用されることだけを心から願っている。さらに教職信徒皆様方の御協力をお願いする次第である。

一九六六年四月一日

東中国教区宣教研究委員長

田井中 純 作

第三版 序 文

第三版の一番大きな特徴は、本書出版の当初から要望されていた「主の祈り」と「信仰告白」の項を加えたことである。

一昨年六月より三名の委員がそれぞれ分担して準備と研究、協議をかさね、本書の内容と性格を考慮して、あわせて九問を加えることにした。使徒信条及び日本基督教団信仰告白の解説は、すでに内容的にふれたところも多く、また他により解説書もあるので割愛した。

昨年九月、委員作成の試案を教区内全教会に配布して意見を求め、其後地区教師会などで逐条検討し、初版発行の際と同じように委員の私案でなく、東中国教区宣教研究委員会発行のものとして努力した。その願うところは、この書物が単に書斎の友としてでなく、教会の伝道や教育の働きを通して、実際に用いられ、さらに対話と成果が積みかさねられることである。そのとき、この小冊子が教会につかえる生きた書物となると思う。本書企画の意図もそこにあったのである。

今回の担当委員は、小寺昌良（井原・高屋教会牧師）、内藤留幸（岡山蕃山町教会牧師）、田井中純作（倉敷教会牧師）であり、十五回の会合を要した。全体の内容についても、手を加えたいところがいくつかあるが、将来の改訂に譲ることにした。

わたしたちの予期にまさって、全国諸教会よりの要望が多く、昨秋すでに第二版が売り切れ、この第三版準備中にも、教区内外から、発行を待つ要望と激励が数多く寄せられたのは、嬉しい悲鳴であった。それらの教会ではおもに、求道者会、入門講座、幼稚園母の会、信徒講座、グループ集会のテキストなどに好評であった。また一人で数十冊を購入して、知人への伝道に用いているとか、この一冊を持って訪問伝道、折伏伝道にひろく奉仕しつつある信徒のたがたのことを伺って大いに励まされる。

ながい教会史の遺産の中に、数多くのすぐれた信仰問答書があるが、異教社会である日本の宣教において、直面する素朴な質問や問題を含んでいることに、本書の特徴があると思う。

さらに、この小冊子が教会教育や信徒伝道の現場でひろく活用され、教会的労苦や対話が力強くつみかさねられることを願っている。

一九六八年二月一五日

東中国教区宣教研究委員長

田井中 純 作

目次

序文	戸田伊助
重版について	田井中純
第三版序文	田井中純

第一部 人生と信仰

問 1	なぜ信仰する必要があるのですか	12
問 2	宗教は社会的不幸の産物と思われます。だから社会の不合理を取り除き、よい社会体制さえ作れば、宗教はいらなくなりはしませんか	13
問 3	人間はいつも修養をつんで、まじめに生きておれば、別に宗教にはいらなくてもよいのではないのでしょうか	15
問 4	御利益 <small>ごりやく</small> 宗教はなぜいけませんか	16
問 5	「わけのぼるふもとの道は多けれど、同じたかねの月をみるかな」とあるように、どの宗教でも結局、同じではありませんか	17

問 6

信仰はひろくいろいろの神をおがみ、おのおの宗教のよいところをとればよいと思えます。一つの宗教にこるのは、人間を偏狭にしな
いでしょうか……………

18

問 7

日本に先祖伝来の宗教があるのに、なぜわざわざ外国から来たキリ
スト教を信じる必要があるのですか……………

19

問 8

現代のように、科学が急激に発達し、さまざまの文明を生み出して
いる時代に、やはり信仰は必要でしょうか……………

21

問 9

キリスト教を信じると、どんなよいことがありますか……………

22

第二部 神と人間

問 10

神とか仏とかいうものは、みんな人間が作り出したものではないで
しょうか……………

24

問 11

神は天地の創造主といわれますが、それはどういうことですか……………

25

問 12

神は見えない神であるといわれますが、見えないのに存在している
といえるのでしょうか……………

26

問 13 神道でいう神とキリスト教でいう神とは、どちらがいますか……………27

問 14 神が唯一であるとはどういうことですか……………28

問 15 神を「天の父」とよびますが、なぜですか……………29

問 16 神はわたしたち人間にどんないましめをあたえておられますか……………30

問 17 罪とはどういうことですか……………31

問 18 神がこの世を造ったのならば、なぜこの世には悪があるのですか……………32

問 19 また、なぜ人間を罪を犯すように造ったのですか……………32

問 20 では神はこの人間の罪を、どのようにさばかれますか……………33

問 21 神がこの世を支配しているのならば、悪人が栄えて善人が苦しむとい……………34

問 22 うことがあるのは、なぜですか……………34

第三部 救い

問 21 救われるとは、どういうことですか……………36

問 22 信者になっても、しばしば罪を犯すことがありますか、それでも救われてい……………36

- 問 23 救われるためには悔改めねばならないといわれますが、それはどうい
 うことですか…………… 37
- 問 24 神は救いの意志をどのようにしてお示しになったのですか…………… 39
- 問 25 イエス・キリストの十字架の死は、何を示していますか…………… 40
- 問 26 イエス・キリストの復活は、何を示していますか…………… 41
- 問 27 キリストは再臨されるといわれますが、どういうことですか…………… 42
- 問 28 イエス・キリストは人であって同時に神であるといわれます。ま
 た、主とか神の子とかよばれますが、どういう意味ですか…………… 43
- 問 29 イエス・キリストという名前には、どんな意味がありますか…………… 45
- 問 30 人間が救われるのは、自分の力によるのでなく、ただキリストのめ
 ぐみによるということは、どういうことですか…………… 45
- 問 31 神の福音が与えられるのに、なぜイエス・キリストの出来事がなく
 てはならなかったのですか…………… 47
- 問 32 親鸞は人は難行によらず弥陀の慈悲によって救われるときまし
 た。それはキリストの福音とたいへんよくにているように思われま

問 33 すが、どこがちがうのですか…………… 48
二千年前のイエス・キリストが、今日のわたしたちに生ける神との

出合いをあたえるというのは、どうしてですか…………… 49

問 34 聖霊とは何ですか…………… 50

問 35 聖霊を受けるには、どうしたらよいでしょうか…………… 51

問 36 神を父・子・聖霊なる三位一体の神といいますが、三人の神がいる

のでしょうか…………… 52

問 37 人間は死後どうなるのですか…………… 52

永遠の生命とは何ですか…………… 53

問 39 「靈魂の不滅」と「永遠の生命」とはどちらがいますか…………… 54

問 40 「神の国」とか「天国」とかいますが、それは何ですか…………… 55

(附) 地獄とは何ですか。ほんとうにあるのですか…………… 56

第四部 聖書と教会

問 41 聖書とは、どんな書物ですか…………… 58

- 問 42 　　　なぜ、新約聖書だけではいけませんか……………59
- 問 43 　　　聖書を読んでも、ちょっとわかりにくいのですが、どうしたらよい
のでしょうか……………60
- 問 44 　　　聖書のなかには数多くの奇跡物語がありますが、科学的には信じら
れないと思います。どう受け取ったらよいでしょうか……………60
- 問 45 　　　教会とは何ですか……………62
- 問 46 　　　教会では、毎日曜日、礼拝が行なわれていますが、礼拝とは何で
すか……………63
- 問 47 　　　ひとりで神を礼拝していてもよくはありませんか。どうしても教会
の礼拝に出なくてはなりませんか……………64
- 問 48 　　　礼拝では必ず説教というものがなされていますが、なぜですか……………65
- 問 49 　　　洗礼はどうしても受けねばなりませんか……………66
- 問 50 　　　信者になりたいと思うのですが、まだじゅうぶんにわかっています
か。洗礼を受けるのに必要な条件は何でしょうか……………68
- 問 51 　　　礼拝の中で時々、ほんの少量のパンとぶどう酒をいただく儀式があ
りますが、あれはどういう意味ですか……………70

問 52	信仰告白とは何ですか.....	71
問 53	教会は聖書の他に、なんのために信仰告白を必要としているので しょうか.....	72
問 54	それでは日本基督教団の信仰告白はどんなものでしょうか.....	73
問 55	信者はお互を兄弟姉妹とよびますが、どういう意味ですか.....	75
問 56	教会はどんなふうに運営されていますか.....	75
問 57	教会にもいろいろの教派があるようですが、なぜ分かれているので しょうか.....	77
問 58	カトリック教会とプロテスタントの福音主義教会とはどちらがいま すか.....	78
問 59	無教会主義というものがありますが、なぜいけないのでしょうか.....	79
問 60	教会はこの世に対してどんな使命をもっていますか.....	80
問 61	教会での信徒のつとめは何ですか.....	82
問 62	なぜ献金をしますか.....	82
問 63	どのくらい献金すればよいのでしょうか.....	83

第五部 信仰生活

- 問 64 キリスト教生活の基本精神は何ですか……………85
- 問 65 人はおこないによってでなく、めぐみによって救われるというのでしたら、よいおこないはする必要があるのでしょうか……………86
- 問 66 よいおこないとはどんなおこないですか……………87
- 問 67 十戒の第一の戒めは何を教えていますか……………88
- 問 68 第二の戒めは何を教えていますか……………89
- 問 69 教会堂には本尊とか、御神体というようなおがむものはありませんが、それではどのように礼拝をするのですか……………91
- 問 70 第三の戒めは何を教えていますか……………92
- 問 71 第四の戒めは何を教えていますか……………93
- 問 72 つとめのつごうやその他の理由で、日曜日が休日でない場合はどうしたらよいでしょうか……………94
- 問 73 キリスト教は職業についてどう教えていますか……………95
- 問 74 労働組合員であるキリスト者は、ストライキの時、どうしますか……………96

問 75	キリスト教は、資本主義と共産主義のどちらに味方しますか……………	98
問 76	第五の戒めは何を教えてくださいか……………	99
問 77	家庭で親から信仰に反対された場合、どうしたらよいでしょうか……………	100
問 78	キリスト教になると、先祖の供養はどうするのですか……………	101
問 79	キリスト教は国家についてどう考えますか……………	102
問 80	第六の戒めは何を教えてくださいか……………	103
問 81	キリスト教は戦争をどう考えますか……………	104
問 82	第七の戒めは何を教えてくださいか……………	105
問 83	夫婦の正しいあり方について教えてください……………	106
問 84	第八の戒めは何を教えてくださいか……………	107
問 85	キリスト教では富についてどう考えますか……………	108
問 86	第九の戒めは何を教えてくださいか……………	109

- 問 87 第十の戒めは何を教えてくださいか……………110
- 問 88 キリスト者がこれらの戒めを全部守っているとは思われませんか、
それでよいのでしょうか……………111
- 問 89 だれも完全に守ることができないのならば、なぜ神はこんな厳格な
戒めを命じたのですか……………112
- 問 90 もし、罪を犯してしまった時には、どうしたらよいのでしょうか……………112
- 問 91 なぜ祈らねばならないのでしょうか……………113
- 問 92 どんなことを祈ってもよいのですか。正しい祈りを教えてください……………114
- 問 93 「天にましますわれらの父よ、願わくは御名をあがめさせたまえ」
とはどういう意味ですか……………116
- 問 94 「御国をきたらせたまえ。みこころの天になる如く、地にもなさせ
たまえ」とはどういう意味ですか……………117
- 問 95 「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」とはどういう意味ですか……………118
- 問 96 「われらに罪を犯す者をわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆる
したまえ」とはどういう意味ですか……………119

	問 97	「われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」とはどう いう祈りですか……………	120
	問 98	主の祈りをするときにたいせつなことはどういうことですか……………	121
	問 99	祈りの終りに、「主イエス・キリストの御名によって祈ります。ア ーメン」といいますが、なぜですか……………	122
	問 100	祈りは必ずきかれますか……………	122
	問 101	祈禱会とは何ですか……………	123
	問 102	献身とは何ですか……………	124
	問 103	人生の最後の目的は何ですか……………	125
あ と が き……………		田井中純作……………	127